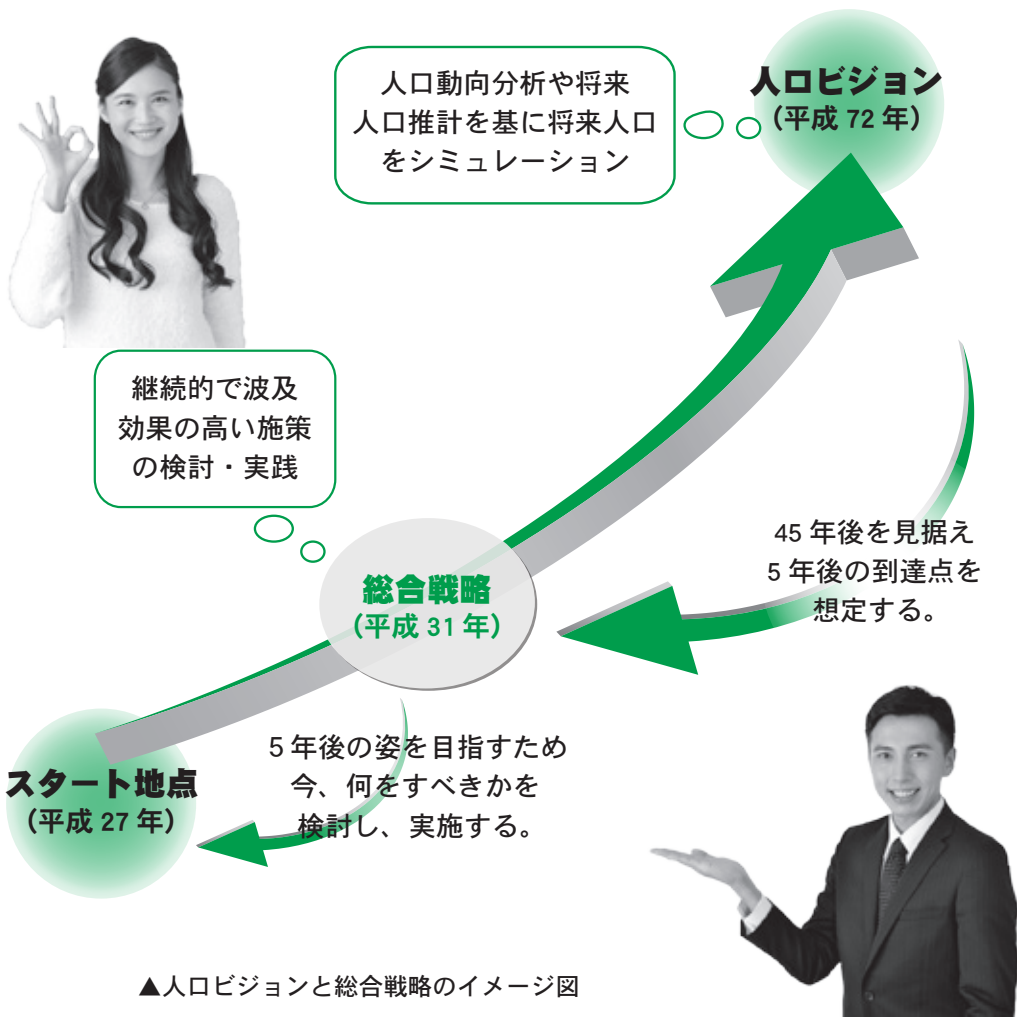


持続可能なまちをつくる

人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定



▲人口ビジョンと総合戦略のイメージ図

平成72年の町の人口

本町の人口の状況

町の人口は、毎年増加を続け、平成22年の国勢調査では、41,851人でした。

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」)の「日本の地域別将来推計人口」(※1)では、本町の人口は平成42年の45,173人をピークに、その後緩やかに減少し、平成72年に42,852人になることが見込まれています。

町が目指す平成72年の人口ビジョン

町への人口流入は、今後もしばらく続くと考えられます。

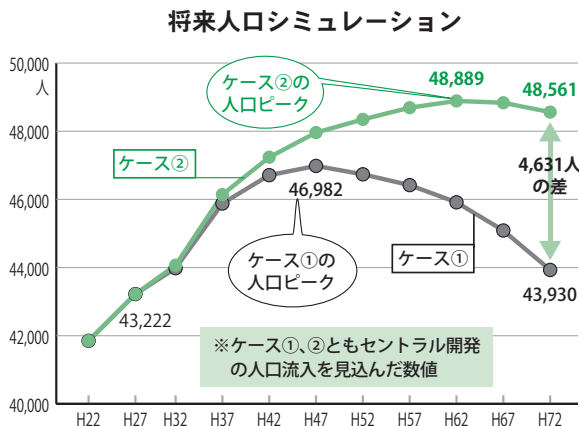
しかし、本町でもいずれ人口の減少が始まります。そして、長期的にまちの活力を持続していくことが難しくなると予想されます。

社人研の推計を受け、国と県の

わが国は、人口減少の局面に入っており、今後急速に少子高齢化が進行していくと予測されています。こうした中、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が公布・施行されました。そして、同年12月に、国は平成72年に1億人程度の人口を確保するとした長期ビジョンと、人口減少に歯止めをかけ地方創生を掲げる総合戦略を閣議決定しました。これを受けて、本町においても、今年3月に人口の将来展望を示す「東郷町人口ビジョン」と、その実現に向けた「東郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

人口ビジョンを踏まえて、町は独自にケース②(平成72年の人口48,561人)を将来の人口の目安として設定し、課題に対して適切に対応していきます。

次の将来人口シミュレーションは、自然増減(出生・死亡)、社会増減(人の移動)などを加味しています。



※1 平成25年3月の推計

※2 国、県の人口ビジョンと同一の数値